九条はらまち

福島県南相馬市原町区
「はらまち九条の会」会報 **No.337**
2019（令和元）年12月1日（日）発行

■**「はらまち九条の会」**とは、戦争放棄の憲法第９条を護って「戦争をしない国・日本」をめざし、支持政党などを問わない自由な市民の会です。随時、入会歓迎です。■結成は2005年12月。会員は南相馬市原町区を中心に395名。年会費千円。■3.11の大震災後、「事故の福島第一核発電所（原発）に世界一近くで活動できる“九条の会”」を自覚し、「日本国憲法の草案を起草した憲法学者鈴木安蔵（小高区出身）の故郷の“九条の会”」を誇りに活動しています。ご一緒にいかがですか。

寒いけど ご一緒に、手配りしませんか

1月12日（日）成人式『憲法』小冊子の配布

日時：2020年1月12日（日）12時～13時
会場：南相馬市民会館前・11時30分集合

○本会の成人式の新成人への「憲法」小冊子配布は、2008年に始まり2020年で11年目に。（2017・2018年は市当局が新「憲法」冊子を作成して配布）
○毎年、寒風吹き荒れる厳しい中での手配りで、高齢者が多い事務局員で大変ですが、「若者こそ大切な憲法を読もう」を伝えようと来年も頑張ります。よろしかったら会員の皆さん、ご一緒に「憲法」を手配りしませんか。「成人おめでとう」と、着飾った新成人に声をかけて手配りしたら‥‥若さがよみがえるかも！

改憲NO！3000万署名に163筆、カンパ6，273円集まる

11月3日・第9回サポセンフェス＜あきいち2019＞

○**「はらまち九条の会」**は今年も＜あきいち＞に参加し、原ノ町駅通りの歩行者天国・諸井緑樹園さん前で、「安倍9条改憲NO！3000万署名」活動を行い、9条を守ろうとアピールしました。

▲本会のブース＜写真左＞には、9月20日に亡くなった朝倉悠三さんの「震災絵日記」パネルを約30枚を展示しました。パネル見学や署名に訪れる市民も多く、朝8時半から午後3時20分まで大盛況でした。会では訪れた人々に、キャンディ、九条川柳カード（京都九条の会提供）、根付け（阿久津さん提供）、毛糸小タワシ（高橋利子さん提供）などをプレゼントしました。＜写真右＞はブースを運営した、皆さん笑顔の事務局の面々。お疲れさまでした。

No.337

ローマ教皇、"核兵器廃絶"を訴える

▲来日したローマ教皇第266代のフランシスコ（82歳）

○38年ぶりに11月23日に来日したローマ・カトリック教会のフランシスコ教皇は、被爆地の長崎と広島、東京で、さまざまな意義深い言葉で、平和や核兵器廃絶、難民保護、環境保護、脱原発などを発信されました。♡

これは教皇のアドリブ

☆「核兵器は私たちを守ってくれるものではない」
☆「核戦争の威嚇で平和などは提案できない。核兵器の保有は倫理に反する」
☆「核兵器禁止条約を含め、核軍縮と核不拡散を訴えていきたい」♡
☆「安全が保障されない限り、核エネルギー（原発）は使うべきではない」

◈東京での「大震災被災者の集い」やミサなどに、南相馬市からも多くの方が参加しました。本会事務局員の平田允子さんや栗村佳子さんも出席され、「大変感動し、感慨深い集いでした」と話されています。教皇に謁見された市民の方々を紹介します◈（ネット動画で視聴できます）

▲教皇に謁見する中央が田中徳雲さん、右が鴨下全生まっきさん。
＜11月26日付『福島民友』＞

「大震災被災者の集い」に田中徳雲さん 教皇と謁見

○原町区の復興支援団体「カリタス南相馬」からの推薦で、11月25日千代田区ベルサール半蔵門での「教皇と東日本大震災被災者の集い」に、小高区同慶寺住職の田中徳雲さん（45歳）も出席してスピーチ。大きく報道されました。

＜田中さんは「はらまち九条の会」事務局員です＞

○「集い」には、岩手県宮古市の加藤俊子さん、田中徳雲さん、鴨下全生まっきさんの3名が登壇し、力強いスピーチを発表されました。

◉被災者代表のスピーチの後、教皇が返答のメッセージを。田中さんが一番感銘を受けたのは**「私たちは何事にも無関心ではいけない、無関心が最大の悪」**ということでした。

◉スピーチの原稿に、事前にバチカン外務省が変更を求めていました。しかし高校生の鴨下さんは勇気をふるい「原発は国策、政府の思惑で被害者が分断された」など自分の元の原稿のまま訴えたそうです。

◉6年前の2013年12月24日のクリスマスイブに、バチカンのサンピエトロ大聖堂で、日本人として初めてパイプオルガンを演奏された原町区のオルガニスト**青田絹江さん**は、「被災者の集い」の次の、**文京区の東京カテドラル聖マリア大聖堂の「青年との集い」で、教皇の入場の際パイプオルガンを演奏されました。**さらに東京ドームの「5万人のミサ」にも出席と話しています。

＜「被災者の集い」田中徳雲さんのスピーチ・全文＞

本日はこのような機会をいただき、ありがとうございます。

私の住んでいた所は、地域のシンボル的なお寺で、事故原発から北西に17キロの所にあります。農業と漁業が中心の自然豊かな長閑な場所でした。多くの人々は三世代、四世代が同居して住んでおり、先祖から伝わる歴史と文化を大切にしていました。町には千年続くといわれる神事、相馬野馬追いがあります。

私たちは受け入れ難い、厳しい現実の中で、一時は途方に暮れました。しかし少しずつではありますが、やがて立ち上がり、その現実を受け止め、歩みはじめています。そして、便利な時代の恩恵を受けて生活してきたこと、つまり被害者ではあるが、同時に加害者でもあることを自覚し反省しています。

原発の問題のみならず、天変地異や異常気象、海洋汚染などの環境問題、そして戦争、難民、食糧、経済格差や心の荒廃など、多くの問題をいかに自分の問題として捉えることができるか。謙虚さを保ち、正しく理解し、反省すべきところは素直に反省すること、そして何より大切だと思うことは地球の声を聞くことです。

私たちは地球の一部、環境の一部です。りんごの木にたとえれば、一人ひとりが果実だとすると、地球は樹木です。その果実から樹木への意識の目覚めが必要です。樹木こそが私たちの本性です。果実から樹木に意識が覚醒すれば、毛虫が蝶になるように変化が起こり、問題はひとりでに解決されていくと思います。

私たちは今、生き方が問われています。成長から成熟へ、自らが変化の一部になりましょう。ありがとうございました。

（田中さんのスピーチは、原稿なしの穏やかな口調で感動的でした）

3分15秒、インターネットでどうぞ！